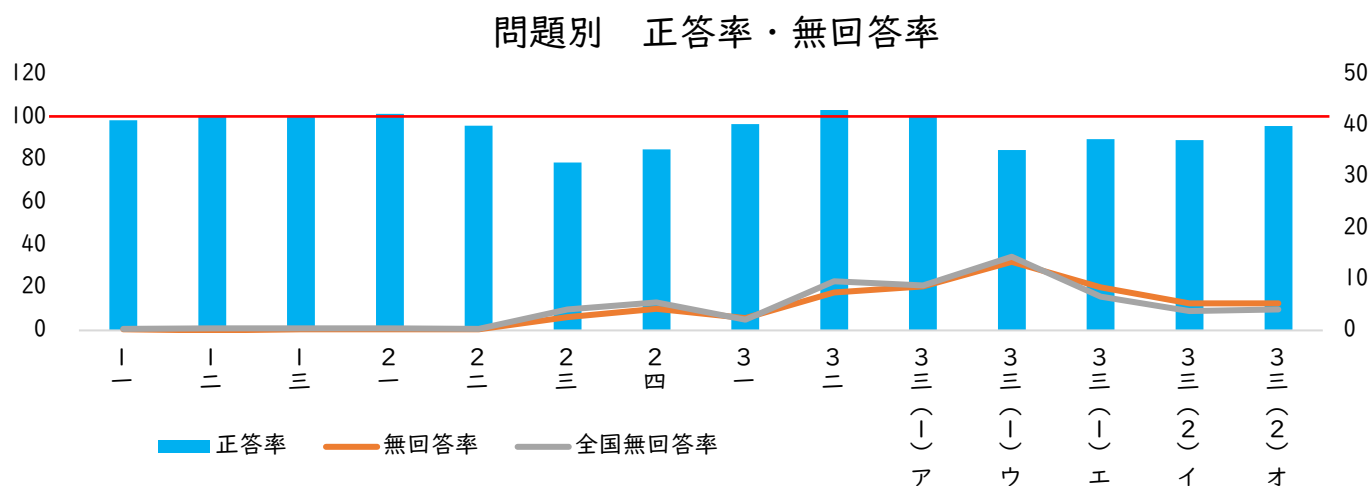
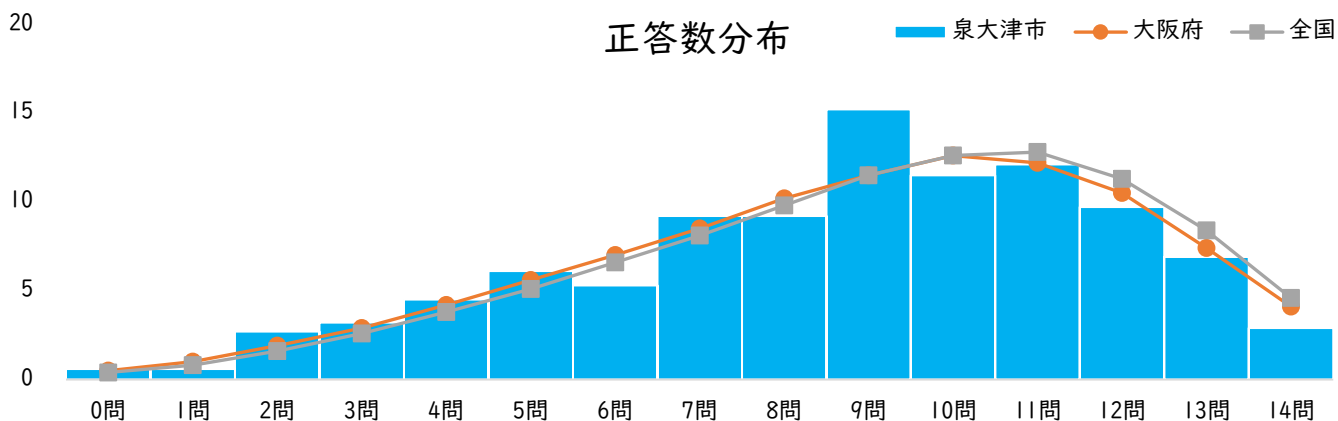


令和3年度 全国学力調査結果報告

全国学力・学習状況調査の詳細

小学校国語



正答数の中央値は全国平均との差はありませんでした。しかし、分布を見ると、9問正解した児童の割合が最も高く、平均正答数は全国平均をやや下回りました。

問題ごとの正答率を、全国平均を100としたときの割合で比較すると、以下のような問題で課題が見られました。

- 2三「目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見つける」
- 2四「目的を意識して、中心となる語や分を見つけて要約する」

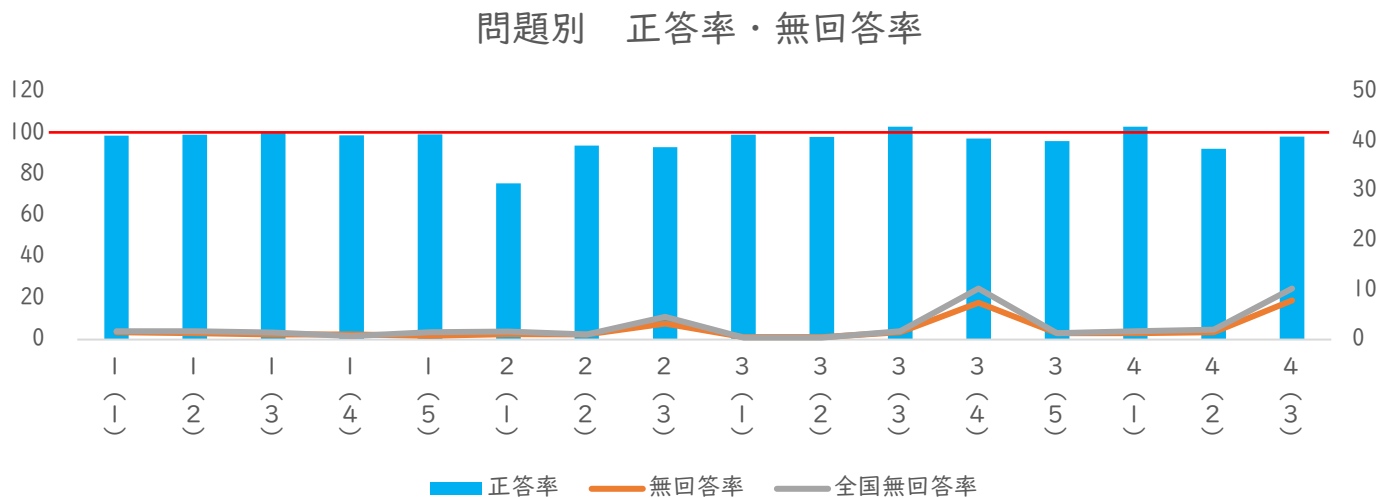
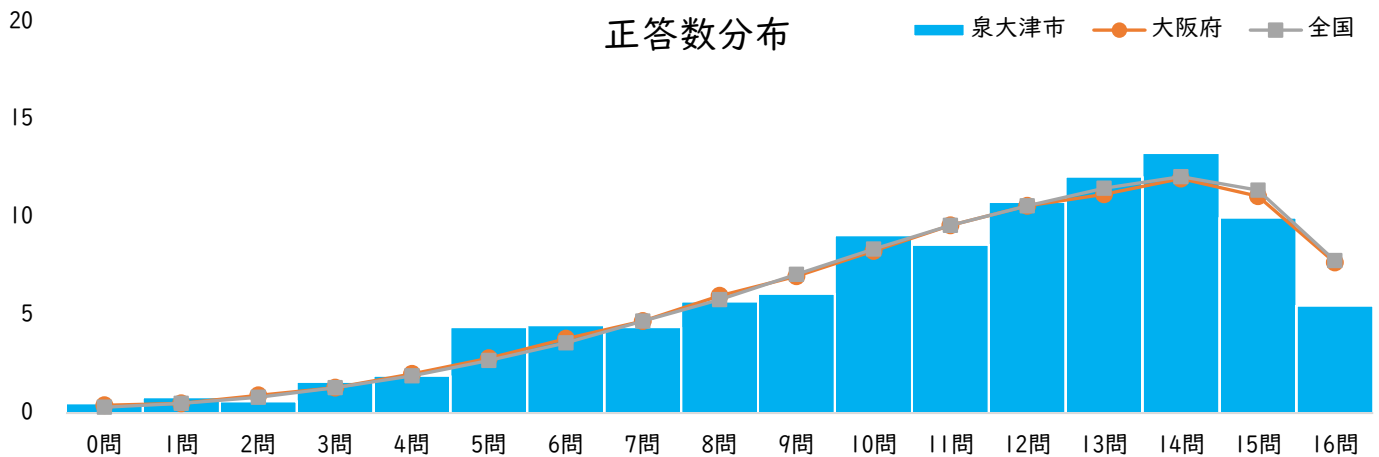
どちらも、文字数は制限通りに書けているけれど、「書くように指示されたことを、文章の中から見つけて書くことができていない」という誤答が目立ちました。これらのことから、問題文を読み、何をすべきかとらえたり、文章の中から必要な部分を引用したりする「読む力」に課題があるといえます。

また、無回答率が高く、正答率が低かった問題は以下のような問題です。

- 3三「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う」

漢字を覚えるだけでなく、必要に応じて使いこなせる力をつけることが必要です。

小学校算数



正答数の中央値は全国平均との差はありませんでした。分布をみると、15問、16問正答した児童の割合が大阪府、全国よりも低く、平均正答数も全国平均をやや下回りました。

問題ごとの正答率を、全国平均を100としたときの割合で比較すると、以下のような問題で課題が見られました。

2 (1) 「三角形の面積の求め方について理解している」

図形に関する問題の中でも、直角三角形の面積を求める式と答えを書く問題で、計算の間違いではなく、三角形の面積を求めるのに「 $\div 2$ を書いていない」「三辺すべてをかけている」という誤答が多く見られました。面積の求め方を公式として覚えるだけでなく、なぜそのような公式になるのかを理解することが重要です。

無回答率が高かったのは、いずれも記述式の問題でした。

2 (3) 「二等辺三角形を組み合わせた平行四辺形の面積の求め方と答えを書く」

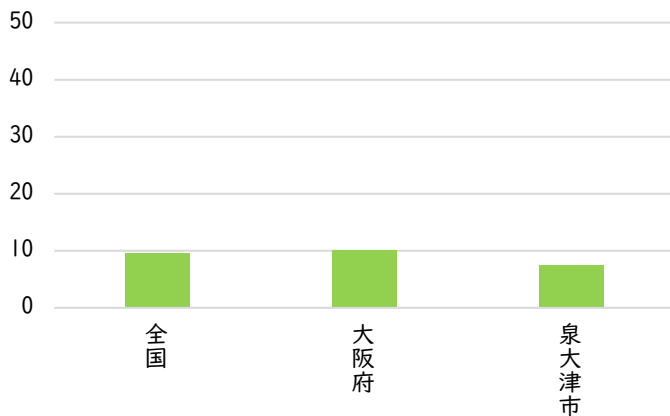
3 (4) 「帯グラフから、割合の違いが、一番大きい項目を選び、その項目と割合を書く」

4 (3) 「30mを1としたときに12mが0.4に当たるわけを書く」

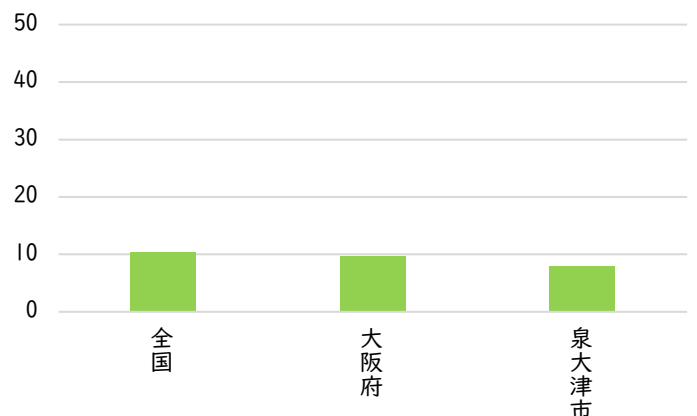
いずれも「求められている記述内容が足りない」という誤答が全国平均をやや上回りました。何をどのように説明することを求められているのかを問題文から読み取り、文章を組み立てる力が求められます。

小学校の成果と課題

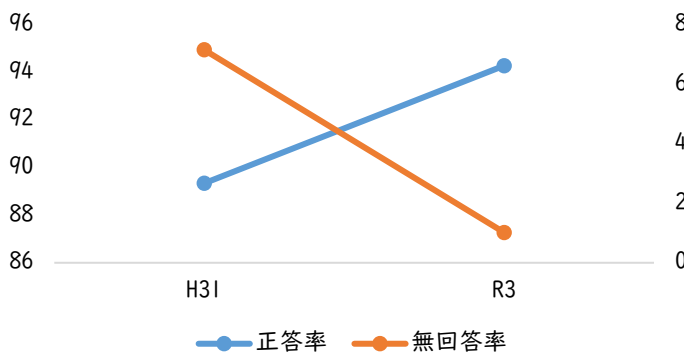
① 国語 3 二 無回答率



② 算数 4 (3) 無回答率



③ 正答率と無回答率



①②は全国平均、大阪府平均、泉大津市平均、市内各小学校の平均無回答率を比較した。無回答率は低いほどよい。

③は泉大津市内の小学校1校の国語の正答率を、全国平均を100とした時の割合で表し、無回答率との関係を示した。

上の①②のグラフは、国語、算数の泉大津市の無回答率が、全国平均と比較して、差が大きかった問題について、各校の無回答率を示したものです。泉大津市平均の無回答率は全国平均より低く、成果といえるのですが、学校ごとに見ると、もっと差が大きい学校もあります。

無回答率が低い学校は必ずしも全体の中で正答率が高い学校とは言えませんが、学校ごとの経年変化で見ると、③のように、無回答率が下がると、正答率が上がる傾向にあります。そのため、無回答率が高かった学校の課題を分析するだけでなく、無回答率が低くなった学校の成果についても分析し、学校間で共有することが重要になります。

記述式の問題について経年の課題があるとされてきましたが、今回の調査結果では、記述に関しては改善が見られ、記述式であっても「書く力」より、文章を読み、内容をまとめるという「読む力」に課題があるということがわかりました。

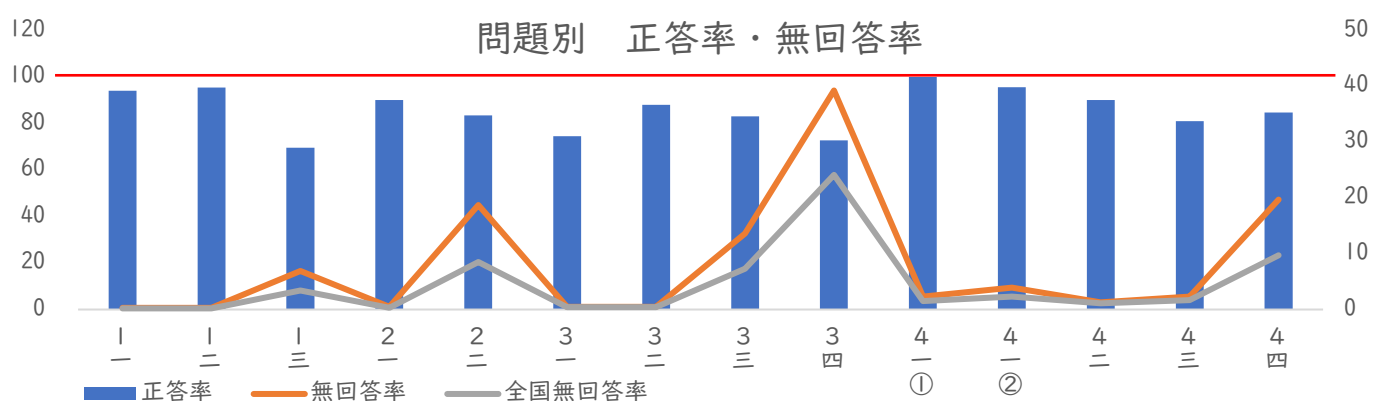
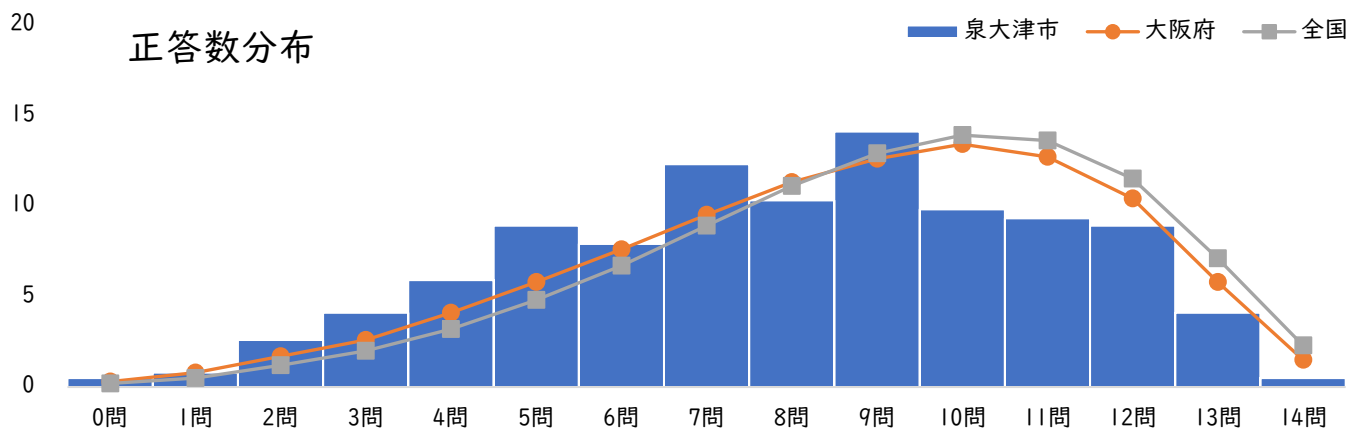
成果

- ・ 無回答率の低下
- ・ 書く力の向上

課題

- ・ 基本的な知識の定着
- ・ 文章や図表から大切な部分を読み取る力の向上
- ・ 情報を得て考えたことをまとめる力の向上
- ・ 学んだことを活用する力の向上

中学校国語



正答数の中央値は全国平均より1ポイント低く、平均正答数も1ポイント低くなりました。正答数分布を見ても、全国や大阪府とは異なり、上位層が少なく、下位層が多くなりました。

問題ごとの正答率を、全国平均を100としたときの割合と比較すると、ほとんどの問題で府の平均を大きく下回りました。誤答の詳細を分析すると、以下のような問題で特に大きな課題が見られました。

1三「話し合いの話題や方向を捉えて、話す内容を考える」

3四「文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつ」

3一「文脈の中における語句の意味を理解する」

4三「相手や場に応じて敬語を適切に使う」

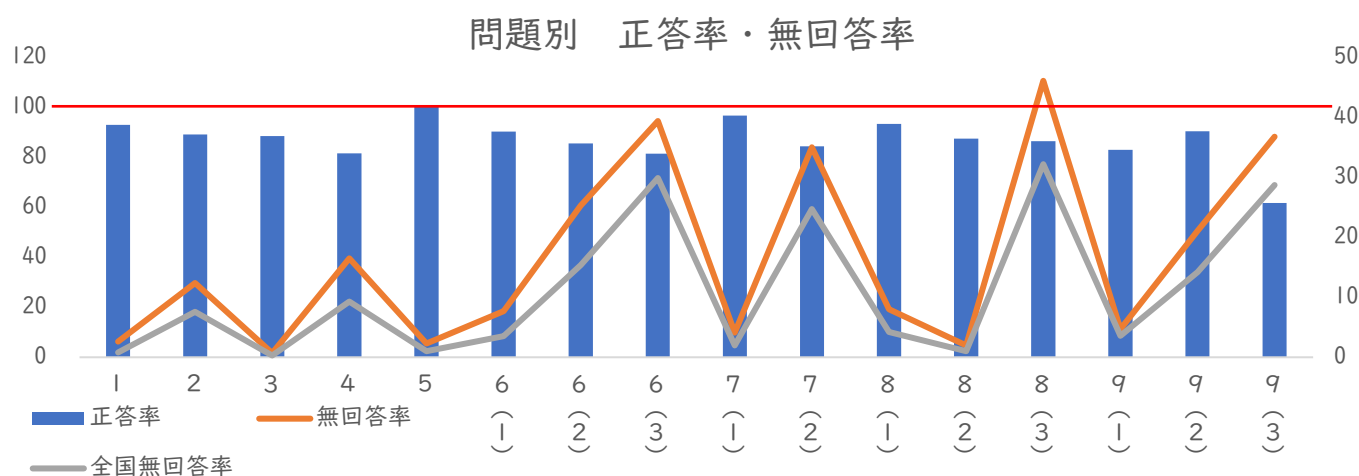
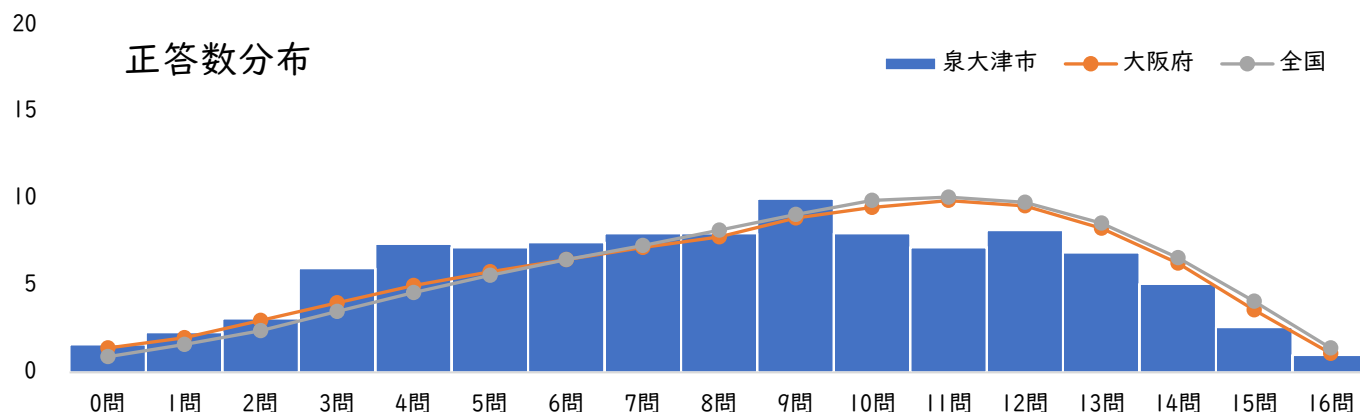
1三、3四はいずれも文脈を捉え、あとに続く内容を考えたり、自分の考えを持ったりする問題です。生徒の誤答の種類を見ると、そう考えた理由が書かれていなかったり、本文からの引用がなかったりするケースが多く、求められている状況を理解して、解答できていませんでした。

3一は「呼吸をのみこんだ」という語句が、文脈の中でどのような意味を持つのかを問う問題です。生徒の多くは、「発言を我慢した」と解答していますが、正答は「コツをつかんだ」という意味になります。他にも、「息を吸い込んだ」と解答する生徒の割合もやや多く、文脈を捉えられていないことがわかります。

4三は敬語に関する問題です。「正しい敬語が使用できているか」「敬語の種類」の2点について正しく答えられれば正答となりますが、正しい敬語を書けた生徒は45%にとどまり、全国平均を10ポイント以上下回りました。

また、誤答の割合が低くても、無回答率が高いために正答率が低くなっている問題もあります。これらの状況から、他社の意見を聞いて自分の考えを持ち、様々な言葉を使って、自分の考えを伝える力に課題があるといえます。

中学校数学



正答数の中央値は全国平均より2ポイント低く、平均正答数も0.9ポイント低くなりました。正答数分布を見ても、全国や大阪府とは異なり、上位層が少なく、下位層が多くなりました。

問題ごとの正答率を、全国平均を100としたときの割合で比較すると、ほとんどの問題で府の平均を大きく下回りました。その中から、正答率について、全国平均との差が大きかった順に3問取り上げると、以下のようになります。

9 (3) 「ある条件の下で、いつでも成り立つ図形の性質を思い出し、それを数学的に表現することができる」

6 (2) 「目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができる」

4 「関数の意味を理解している」

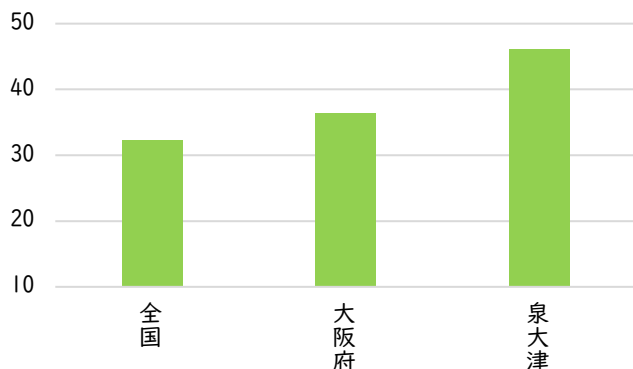
9 (3) は、平行線の性質を基に、角の大きさが変わらないことを述べる問題ですが、無回答が高く、正答率が低くなりました。誤答も全国平均より少ないため、考えて書くこともできていない状況がうかがえます。

6 (2) は、四角で4つの数を囲むとき、4つの数の和はいつでも4の倍数になることについて、予想が成り立つ理由を説明する問題です。すでに途中まで説明があるため、その内容を読み取って、式を変形させる必要がありますが、9 (3) と同様に無回答が多く、「内容を読み取ることができなかった」「自分の考えを形成することができなかった」等の状況が考えられます。

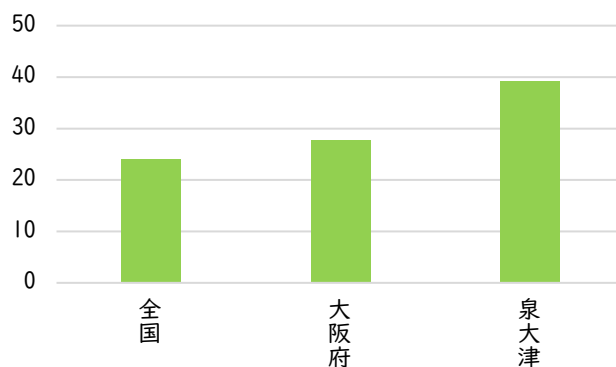
4 は、午前8時から経過した時間と、それに対応する影の長さの関係について述べた文を読んで、「影の長さは経過した時間の関数である」と書き表す問題です。文の中の言葉を選んで書くだけの問題ですが、誤答、無回答率のいずれも全国平均を上回り、関数の意味を理解できていないといえます。

中学校の成果と課題

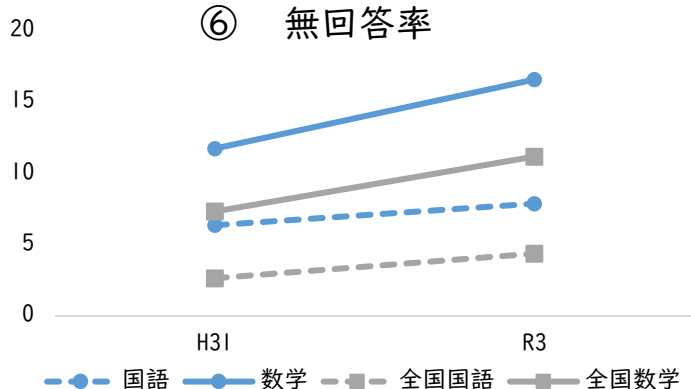
④ 数学3(5) 無回答率



⑤ 国語三四 無回答率



⑥ 無回答率



④⑤は全国平均、大阪府平均、泉大津市平均、市内各小学校の平均無回答率を比較した。無回答率は低いほどよい。
⑥は国語と数学の無回答率を経年で比較した。○マーカーが泉大津市、□マーカーが全国平均を表す。

調査結果概要でも示した通り、国語、数学ともに、正答率において、前回の調査から、全国平均との差はほとんどなく、大きな変化はなかったといえます。しかしそれは、大きな改善もなかったということになり、多くの課題が残されています。

④⑤のグラフは、無回答率について、全国平均と泉大津の差が最も大きかった問題について示したものです。国語、数学のいずれも、無回答率で全国とほぼ同じか、高くなりました。⑥を見ると、全国平均の無回答率とほぼ同じように泉大津市の無回答率も上がっており、改善が見られませんでした。

今回の調査では、誤答より無回答が目立ち、与えられた情報を利用して自分の考えを示す場面で、特にその割合が高くなっていました。

中学校では、小学校と比べ、知識の幅も広がりますが、身に着けた知識を活用する場面や方法も多様化し、より高度な思考力、判断力、表現力が求められます。それらの力を発揮する場面で、無回答が多かったことは、まだ力がついていないことに加え、そのような力を発揮する場面が、これまでの学習に乏しかったことも示唆されます。

改善が進んでいない部分について再認識し、各校の授業改善を進めていくことが求められます。

課題

- ・知識及び技能の定着
- ・文章を読み、理解する力の向上
- ・情報を得て考えたことをまとめる力の向上
- ・学んだことを活用する力の向上

考察

小学校では「書くこと」を中心とした取り組みや、子どもたちの主体性を育む授業づくりが結果につながったと考えられます。また、教科横断的な学びや読書活動など、教科の枠を超えた学習活動も、自分の考えを持ち、表現する力につながったと考えられます。

中学校では、課題が多く残りましたが、話し合い活動や自宅学習など、特に力を入れて取り組んできたことは、質問紙調査での肯定的回答の増加という結果に表れています。

泉大津市では、ICTの活用が大きく進んでいます。そういった「強み」を生かし、さらに授業改善、個別最適化された学びを推進する必要があります。

学校・教育委員会の取り組み

○授業力の向上

今回の結果で成果が見られたところ（「書く力」の向上・無回答率の低下）、課題となったところ（「読む力」・「情報活用能力」）は、小学校・中学校の校種を越えて、学校間でも共有できるよう、教育委員会から学校や全教員へ情報を発信してまいります。特に、成果につながった取り組みについては、各校でも詳しく分析し、市内全体で情報の共有を図ります。

○個別最適化された学び

子どもたちが自己調整力や粘り強さを発揮して、主体的に学習に取り組み、一人ひとりの能力を伸ばせるよう、ICT等を活用し、個別最適化された学びを推進します。

○「読む力」の向上

学校図書館の機能を充実、授業の中で活用や読書の機会を増やすことで、課題となった読解力や資料活用能力の育成を図ります。

家庭との連携

全国学力・学習状況調査、小学生すくすくウォッチについては、一人ひとりの結果も「個人票」として渡しています。一人ひとりのがんばりや良いところを認め、はげましてあげてください。また、小学生すくすくウォッチは、アドバイスも書かれています。これからの自分に何が必要かを考え、自学自習の材料としてください。

家庭学習の習慣は増えていますが、同時に、携帯電話やスマートフォンの使用時間、ゲームをする時間も増えていきます。学習習慣・生活習慣の確立にご協力お願いいたします。